

# アムビゾーム®点滴静注用50mgの調製法

医療関係者用

効能又は効果、用法及び用量、注意事項等  
情報については、電子添文をご参照ください。

## 使用器具・用品



## 注射液調製の手順

### 1 使用する物品の用意

調製にあたって使用する物品は右のとおりです。  
用法・用量にしたがって事前に確認してください。  
患者さんの体重に合わせて必要なバイアルを  
準備してください。

### 2 バイアルに注射用水を12mL注入

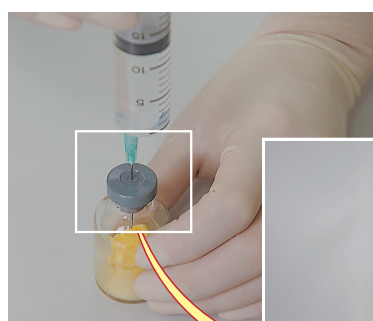
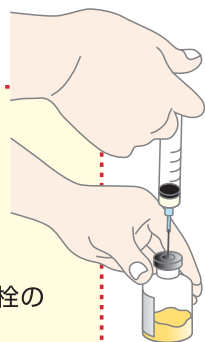
シリンジに12mLの注射用水を採取し、  
1バイアルずつ注入してください。

#### 注意

● バイアル内の強い陰圧のため、急速に規定量  
(12mL) を超えて注射用水がバイアル内に  
引き込まれます。複数のバイアルを調製する  
場合であっても、注入用のシリンジには必ず  
「12mLの注射用水」を準備してください。

- コアリング\*防止のため、針を刺すときはゴム栓の  
中心部に針を垂直に挿入します。
- 溶解には必ず注射用水を用い、それ以外のもの  
(生理食塩液等の電解質溶液等)は使用しないでください。

\*コアリング：バイアルのゴム栓に注射針を穿刺するときに、  
ゴムの削片が生じ注射液に異物混入を起こす現象。



横から見ると

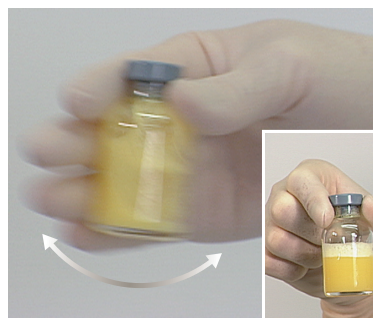
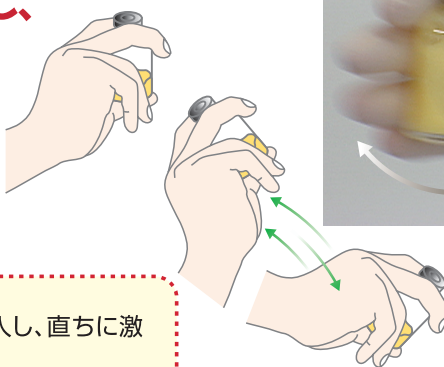


### 3 直ちにバイアルを振とうし、完全に溶解する

本剤は溶けにくいので、注射用水注  
入後は直ちに振とうし、均一な黄色  
の半透明な液になるまで激しく振り  
混ぜてください。

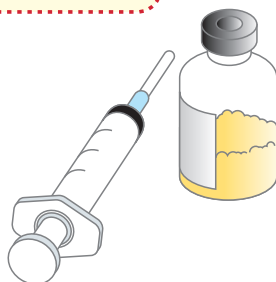
#### 注意

- 1バイアルごとに注射用水12mLを注入し、直ちに激  
しく振とうしてください。
- 溶解状態を目視にて確認し、溶け残りの小さな塊を  
見つけた場合には、完全に溶解するまでさらに振とう  
を続けてください。



### 4 溶解状態を確認

完全に溶解した本剤は、黄色く半透明  
な液 [4mg(力価)/mL] で泡立ち  
やすい状態になります。  
(このときの薬液量は12.5mLになり  
ます。)



溶け残っている部分

不完全な溶解



完全に溶解

## 注射液調製の手順 (つづき)

### 5 薬液をシリンジに採取する

採取前に、バイアル内に十分な空気を入れて復圧する(復圧操作例は下記注意参照)。復圧後、溶解した本剤をシリンジに採取します。

#### ⚠ 注意

- 復圧操作一例: 採液用シリンジのプランジャーを十分に(目安: 約20mL)引いた後バイアルに針刺しをすると、約10mLの空気が吸引されバイアル内を復圧できます。
- 針を刺すときはゴム栓の中心部に針を垂直に挿入します。



空気が入ってバイアル内を復圧



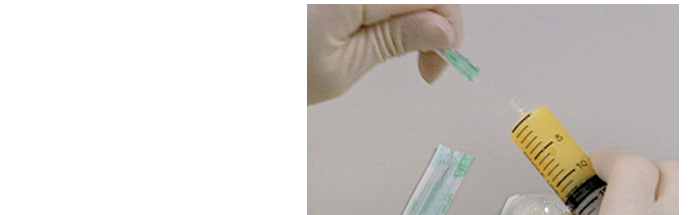
バイアル内を復圧後に薬液を採取

### 6 シリンジにフィルターを必ず取り付ける

必ず添付のフィルター(孔径5 $\mu$ m)をシリンジに取り付けてください。注射針をはずしてフィルターを開封し、シリンジに取り付けます。注射針をフィルターにねじ込み、ロックします。

#### ⚠ 注意

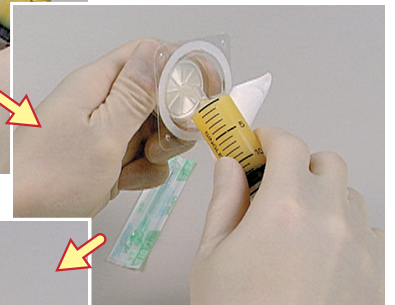
- 本フィルターは除菌フィルターではありません。
- フィルターは汚染を避けるため、使用直前に開封し、速やかに使用します。フィルターあるいはシリンジの結合部分(先端部分)を直接触らないように注意してください。
- 添付のフィルター(孔径5 $\mu$ m)以外のものを用いないでください。また、各々のバイアルについて新たなフィルターを使用してください。



注射針をはずす



フィルター開封



フィルターを取り付ける



注射針をフィルターにねじ込みロックする



### 7 5%ブドウ糖注射液に希釈する

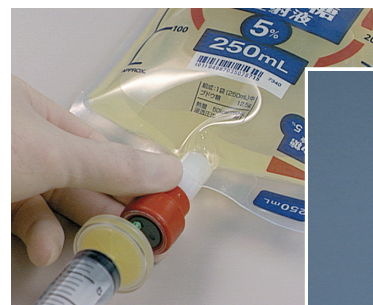
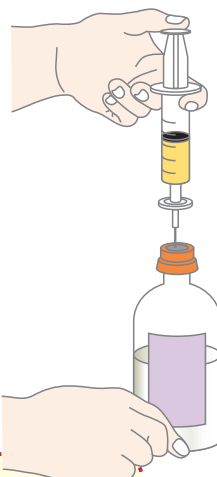
採取した溶解薬液をフィルターを通して5%ブドウ糖注射液に加え、静注用希釈液とします。使用前に、希釈液が半透明であることを確かめてください。

#### 〈参考〉

- 2.5mg/kg/日未満投与の場合、100mLの5%ブドウ糖注射液に希釈する。
- 2.5mg/kg/日以上投与の場合、250mLの5%ブドウ糖注射液に希釈する。(希釈液の薬液は、0.2~2mg(力価)/mLの濃度において安定性が確認されています。)

#### ⚠ 注意

- 希釈には必ず5%ブドウ糖注射液を用い、それ以外のものは用いないでください。



#### 通用上の注意

- 14.2 薬剤投与時の注意
- 14.2.1 本剤を投与する場合は1~2時間以上かけて点滴静注すること。
  - 14.2.2 本剤の点滴投与時にインラインフィルターを使用しないこと。目詰まりを生じることがある。
  - 14.2.3 他の薬物とは混合しないこと。また、既に留置されている静注ラインは5%ブドウ糖注射液であらかじめ置き換えること。これができない場合には、別のラインを使って投与すること。
  - 14.2.4 可塑剤としてDEHP(di-(2-ethylhexyl)phthalate;フタル酸ジ-2-エチルヘキシル)を含むポリ塩化ビニル製の輸液セット等を使用した場合、DEHPが製剤中に溶出するので、DEHPを含まない輸液セット等を使用することが望ましい。